# メモリー

らくがき

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

## 注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
メモリー

【Ｎコード】
Ｎ１４１１Ｒ

【作者名】
らくがき

【あらすじ】
気付くと目の前に死体…
俺の手には血だらけの包丁…
２０３０年４月１日、雨がひどい中、どうやら俺は人を殺した。

## はじまり

　気付くと目の前に死体…
俺の手には血だらけの包丁…
２０３０年４月１日、雨がひどい中、どうやら俺は人を殺した。

「記憶喪失」刑事は俺にそう言った。
覚えているのは自分の名前「広島なおと」のみ
他は教えてもらうまで、何もわからなかった。
出身地、両親、年齢
そして、俺が殺した人の名前も…
俺が殺したのは「長崎こうじ」
そいつは、俺の幼なじみらしい。
何故俺が殺したのか全くわからない。
というか、なにが起こったのかまだしっかりとわかっていない。
『ホントに覚えていること他にないのか？』
『ああ。』
この質問は４回目。いい加減、しつこい。
『うう～ん…。』
５０代と思われるその刑事はずっと悩んでいた。
『なにに悩んでいる？』
俺は、思い切って聞いた。何も覚えていないのだから、
病院かどこかに入院すると思っていたが、
検査して状況を説明されてこの取り調べ室にすぐ入れられた。
２時間ちかくもこの刑事は悩んでいる。
『いや…。お前の記憶を失った原因がイマイチ納得できんのだ。
　それに、医者の話じゃお前の記憶の失い方が異常で、
　取り戻すことがかなり難しいらしいのだ。』

俺は自分が人を殺したというショックで記憶を失ったという。
そのことがこの刑事にとって謎なのか。
『よし、決めた。』刑事が決断した。
『これからお前に言うことは本当のことだ。
決してからかったりするわけじゃない。いいな？』
俺の目を見て刑事はそういった。
『わかった…。』
『よし…。』
何秒か、２人とも黙っていた。
そして、その刑事は言った。

『お前、過去に行って記憶取り戻して来い。』

## ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n1411r/

メモリー

2011年10月8日19時20分発行